

今週（6月7日から6月11日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、国債発行や交付税借入から財政等要因は揚げ超であったものの、短国買入オペが前回から増額でオファーされたこともあり、日銀当座預金残高は510兆円台後半から520兆円と、概ね先週と横ばいで推移した。低下基調にあったレートは、オファーサイドのニーズが一服したことで下げ止まった。積みの終盤に差し掛かったことで最終調整の調達を急ぐ先も見られ、無担保コールO/N物加重平均レートは週初から日を追うごとに上昇していく展開となった。11日は週末要因も重なり、更にレートは上昇した。ターム物については1Wから2Wの期内物での引き合いが見られたものの、来積み期間をまたぐこともあり、目立った出合いは無く、閑散なマーケットとなった。

●レポ市場

今週の債券レポ市場は、積み最終日に近づいてきたことからレートは高めの水準で推移することとなった。7日のT/Nは▲0.075～▲0.06%の出合い、翌8日は▲0.075～▲0.065%の出合い。9日のT/Nは短国の入札発行があったものの、レート水準は変わらず▲0.075～▲0.065%の出合いとなった。10日のT/Nは週末受け渡しで3日間になることからビッドサイドがやや積極的に動き、▲0.085～▲0.07%までの出合い。週末11日のT/Nも短国の入札発行があったものの、レートは大きく動かず▲0.08～▲0.07%の出合いとなった。
 SCについてはビッドが目立った銘柄は5y 140～147、10y 354～362、20y 169～176、30y 68～69、40y 13にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続きGCレートが高止まりとなる中、3M物が▲0.104%、6M物が▲0.105%、1Y物が▲0.128%近辺で推移し、先週比やや軟調な展開となった。
 8日に実施された短国買入オペは、1Y物が買入対象外とされる中、前回から1兆円増額の1兆5,000億円でオファーされ、全取利回較差+0.007%と弱い結果となった。一部の投資家が在庫を処分したとみられ、市場全体への影響は限定的だった。
 9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.100%近辺での気配が見られる中、平均落札利回▲0.1016%、按分落札利回▲0.0996%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.105%出合いと、堅調に推移した。
 11日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.105～▲0.100%での出合いが見られ、平均落札利回▲0.1022%、按分落札利回▲0.0982%と無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.110～▲0.105%での出合いが見られるなど、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、鉄鋼や石油・石炭、その他金融業態で大型の発行が見られたほか、ゴム製品や卸売業態でもまとまった額の発行が見られ、償還総額6,400億円程度に対して、発行総額4,500億円程度と償還超のマーケットとなった。市場残高は週を通して24兆円台半ば～後半と先週に引き続き高水準で推移している。発行レートについては、新型コロナ金融支援オペの担保確保の買いニーズからか、対象となる銘柄についてはその大半がマイナス圏で推移している。特に発行頻度が低い稀少銘柄や期越え銘柄に関しては強いマイナスの買いも見られた。一方で、残高が多い発行体や6月末までの期内物についてはレートが上昇する展開も散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/7 (月)	29,019.24	0.075	109.55	△ 0.032	△ 0.072	5,182,600
6/8 (火)	28,963.56	0.070	109.40	△ 0.029	△ 0.070	5,189,700
6/9 (水)	28,860.80	0.065	109.45	△ 0.026	△ 0.065	5,192,400
6/10 (木)	28,958.56	0.045	109.62	△ 0.022	△ 0.074	5,201,100
6/11 (金)	28,948.73	0.030	109.40	△ 0.016	△ 0.073	5,197,800

来週（6月14日から6月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/14 (月)					
6/15 (火)	4月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB6M 34,000億円 6/16発行	流動性供給 5,000億円 6/16発行		米FOMC(1日目) 4月の米企業在庫 5月の米生産者物価指数 5月の米小売売上高 5月の米鉱工業生産・設備稼働率
6/16 (水)	4月の機械受注統計(内閣府 8:50) 5月の貿易統計(財務省 8:50) 4月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 6/21発行			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 5月の米住宅着工件数 5月の英消費者物価指数
6/17 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB3M 60,000億円 6/21発行			5月のユーロ圏消費者物価指数改定値
6/18 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 5月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)				

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/14 (月)	▲ 100	4,000	3,900	CP買入 国債補完	▲ 300 500		200	4,100	源泉所得税揚げ 社会保障費 TB3M発行▲60000償還64500
6/15 (火)	0	78,000	78,000				0	78,000	年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲1900 個人向け3Y・5Y償還600
6/16 (水)	▲ 1,000	▲ 17,000	▲ 18,000				0	▲ 18,000	TB6M発行▲34000償還23700 流動性供給▲5000
6/17 (木)	▲ 1,000	3,000	2,000	CP買入		5,000	5,000	7,000	
6/18 (金)	▲ 1,000	15,000	14,000	貸出支援	▲ 26,400		▲ 26,400	▲ 12,400	保険料等交付金の支払い 交付税借入▲11000期日11000
週間合計	▲ 3,100	83,000	79,900	—	▲ 26,200	5,000	▲ 21,200	58,700	

6/14は日銀予想、6/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日に年金定時払いがあるものの、引き続き調達意欲の強い展開が予想される。16日以降は基準比率が増加（5月期間17.5%→6月期間19.0%）する。各業態の動きが注目される。レポ市場は、GC T/Nは、積み期の切り替わりがあることから、週内でレート水準が大きく変わる可能性が高いと考えられる。短国市場は、15日に6M物、16日に1Y物、17日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、14日に実施が予想される短国買入オペのオフア額にも注目したい。CP市場は、6月14日にCP等買入オペが5,000億円で実施予定となっている。当初は4,000億円の予定だったが、5月31日に公表されたオペオファー日程において1,000億円増額することが公表された。直近のオペレートは平均・按分ともに4回連続で上昇しているが、この増額によってオペレートの上昇に歯止めが掛かるのか注目される。

主要なイベントは、国内では17～18日に日銀金融政策決定会合、18日に5月の全国消費者物価指数、海外では15～16日にFOMC、16日に5月の英消費者物価指数などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。